

弥生時代の河道跡から出土した土器



### ご利用の案内

- 休館日 月曜日(休日にあたる場合は翌日の平日)  
年未年始(12/28~1/3)
- 入館料 無料
- 問い合わせ 池子遺跡群資料館
- 電話・FAX 046-871-7006
- 受付時間 開館日の午前9時から午後4時まで

### 交通

- 電車でお越しの場合  
(JR横須賀線)  
JR 逗子駅から「アザリエ循環」行き  
バス乗車約5分  
「池子十字路」バス停下車  
徒歩約8分
- 電車でお越しの場合  
(京浜急行逗子線)  
京急 神武寺駅から  
徒歩約15分



## 池子遺跡群 資料館

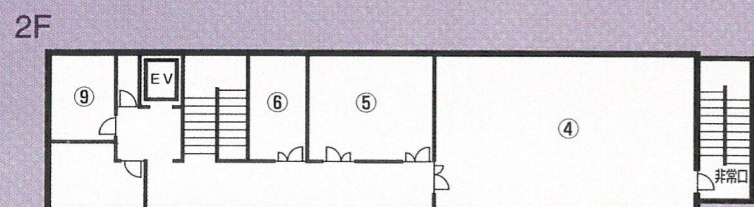
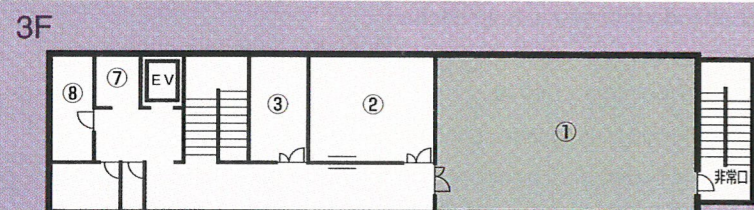
### 施設概要

#### ■建物

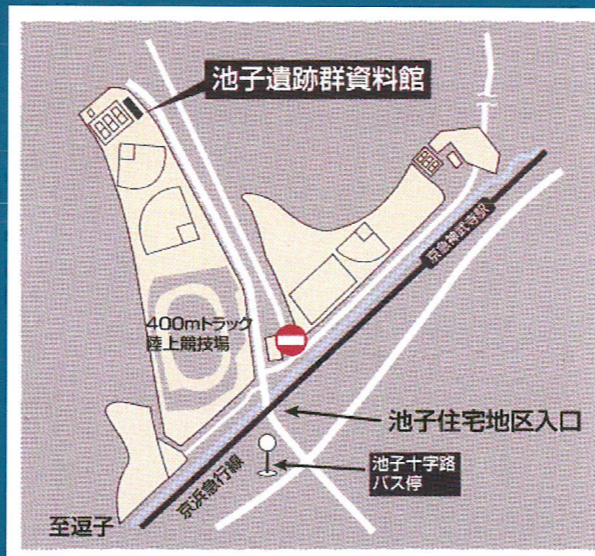
鉄筋コンクリート造  
地上3階のうち2階および3階部分

#### ■延床面積 440.0㎡

3階	展示室	87.5㎡	※展示室のみ公開しています。
	事務室	32.0㎡	
	図書類保管室	14.5㎡	
2階	収蔵室1	87.5㎡	
	収蔵室2	32.0㎡	
	収蔵室	14.5㎡	



- ①展示室
- ②事務室
- ③図書類保管室
- ④収蔵室1
- ⑤収蔵室2
- ⑥収蔵室3
- ⑦多目的トイレ
- ⑧女性用トイレ
- ⑨男性用トイレ

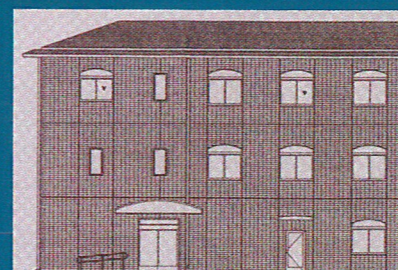


### 池子遺跡群資料館

池子の森自然公園内  
神奈川県逗子市池子  
249-0003  
TEL/FAX:046-871-7006

### 逗子市教育委員会

TEL:046-873-1111  
FAX:046-872-3115



池子住宅地区及び海軍補助施設は、昭和12年(1937)に旧日本帝国海軍の弾薬庫として接収された地域を、戦後にアメリカ軍提供用地としたもので、施設の性格上、一般の立ち入りがきびしく制限されてきたところです。

施設の敷地は、逗子市と横浜市にわたる総面積288万平方メートル(逗子市域分は、約252万平方メートルで、市域の14.5パーセント程度を占める)までにおよびます。\*1

このうち約85万平方メートルについて、アメリカ軍家族住宅建設の計画が立てられたことに伴い、この工事によって地中に眠る文化財(埋蔵文化財)が影響を被る可能性が高い12万平方メートルについて、文化財の記録を残すとともに出土品を安全に取り上げることが目的として、平成元年(1989)から平成6年(1994)にかけて、神奈川県埋蔵文化財センター及び財団法人かながわ考古学財団\*2が発掘調査を実施しました。

発掘調査の結果、弥生時代から近現代に至るまで、この地に暮らした人びとの生活を示す痕跡が数多く検出されました。

その内容は、竪穴住居跡・掘立柱建物跡などの建築遺構、周溝墓・やぐらなどの墓域、水路・耕作跡などの土木遺構など多岐に及びますが、なかでも特筆されるのが弥生時代の河川跡で、古墳時代までに土砂の流入によって埋没したために、埋積土のなかから木製の鋤や斧、機織りの道具、鹿骨製の釣針などの希少な資料が良好な状態で出土しています。

池子遺跡群資料館は、これらの貴重な資料を市民ひいては国民の共有財産として後世に残すとともに、広く公開に供し活用するために設置されました。

\*1 平成25年3月29日現在

\*2 当時(現在は公益財団法人)



土砂に埋もれた弥生時代の河道跡

## シロウリガイの時代

シロウリガイは、深海底の地殻の割れ目付近に生息する貝で、現在も日本周辺で見られる「生きた化石」です。池子のシロウリガイ類化石は、440万年前、古相模湾の水深約1,000メートルに群生していたものが、海底地すべりによって砂泥とともに深海に堆積し堆積岩を形成したと考えられています。

その後、海底の岩盤が地殻変動によって隆起し、約50万年前に貝化石とともに地上にあらわれたもので、生物学的にも地質学的にも貴重な資料です。



シロウリガイ化石を含む岩塊

## 旧石器時代 縄文時代

この時代の遺物はあまり出土せず、人びとの活動の様子は明らかになっていません。

現在よりも気候が温暖な縄文時代前期(約6,000年前)には、池子の谷戸まで海岸線が入り込んでいたと考えられていますので、居住地域は丘陵の上にあったものと思われます。

縄文時代の終わりころ(約3,000年前)には海岸線が退いて陸地が広がったことに伴い、人びとの活動の場も広がっていったようです。



独钻石



ナイフ形石器

## 弥生時代

人びとは川の近くに生活の場を求めました。水田の跡は明らかになっていませんが、川底からは加工途中のものも含め、木製の農具が多数出土しているため、この付近で水田が営まれていた可能性が高いと考えられています。

一方、鹿の骨で造られた釣針や、石製の網おもりなども使われていたようで、半農半漁の暮らしぶりであったことが明らかとなりました。



竪穴住居跡



方形周溝墓



朱彩された壺(弥生式土器)



脚のついた木製の容器

## 古墳時代

弥生時代の末頃には、川に土砂が流入して低湿地となっていたようで、方形周溝墓が築造されています。

谷戸の奥に近いNo.4地点からNo.1-A東地点では、古墳時代の遺物が多く出土しています。

特に、勾玉・剣・鏡などを石でかたどった「石製模造品」が多くみられ、このよう非実用品が盛んに使われたことは、この周辺で何らかの儀式が執り行われていたことを示唆しています。



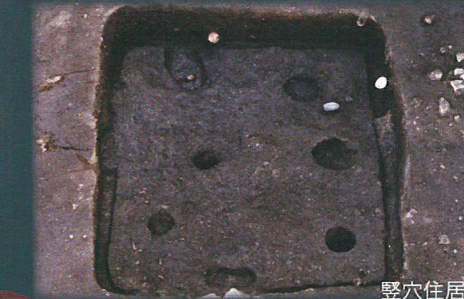
鏡  
銅剣  
鉄剣



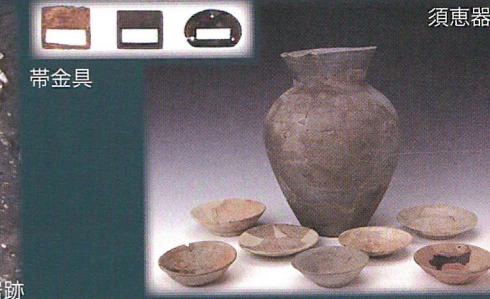
玉類

## 奈良・平安時代

No.3地点やNo.4地点から、奈良・平安時代の竪穴住居や掘立柱建物の跡が検出されています。また、文字を墨書きした土器、木履や鞍の一部と思われる木製品、帯金具などは、この地に有力者の存在を示す資料です。



竪穴住居跡



帯金具

須恵器

## 中世・近世

No.15地点など、山裾の崖面には、鎌倉周辺に多くみられる「やぐら」と呼ばれる石窟遺構が営まれています。池子の地は、鎌倉と六浦をつなぐ道筋の一つであったと考えられています。

また、No.5地点などからは、近世の建物跡や井戸などの遺構が検出され、「池子村」の様子が明らかとなっています。



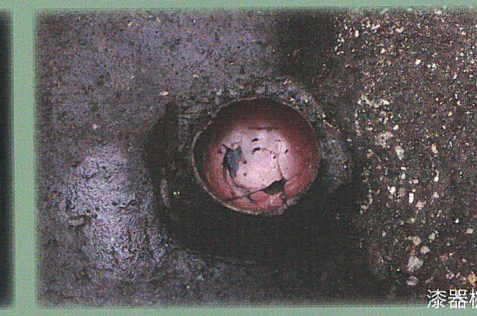
やぐら



かわらけ・陶器



五輪塔



漆器椀

旧石器時代

縄文時代

弥生時代

古墳時代

奈良・平安時代

中世

近世

近現代

15,000  
年前

2,500  
年前

1,700  
年前

1,300  
年前

800  
年前

400  
年前

150  
年前